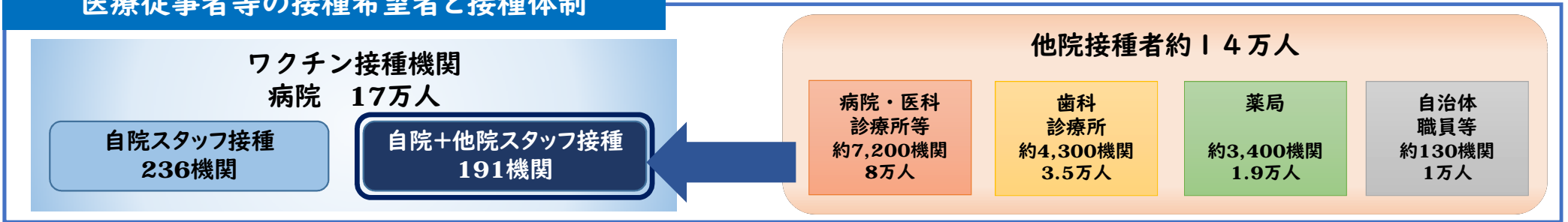


新型コロナワクチン『医療従事者接種・大阪モデル』について

資料2

- ◆ 府内医療従事者等への優先接種を3月上旬から開始予定。
- ◆ 接種希望者は31万人（令和3年2月10日現在）。接種は府内427の病院（自院のみ接種含む）において実施予定。
- ◆ 病院までのワクチン配送及び接種の予約について、ワクチン配送センターとLINE予約による『医療従事者接種・大阪モデル』で実施（いずれも都道府県初）。

医療従事者等の接種希望者と接種体制



配送上の課題

- ファイザー社ワクチンの保存には超低温冷凍庫が必要であるが、接種予定の400以上の病院に対し、国から府へ配備されるのは32台
- 拠点となる病院に冷凍庫を配備し小分け配送する手法は、拠点病院の負担が大きい

接種予約上の課題

- 自院スタッフを除く約14万人もの接種予約を効率的に管理する仕組みが必要

① ワクチン配送センターの設置による一元管理

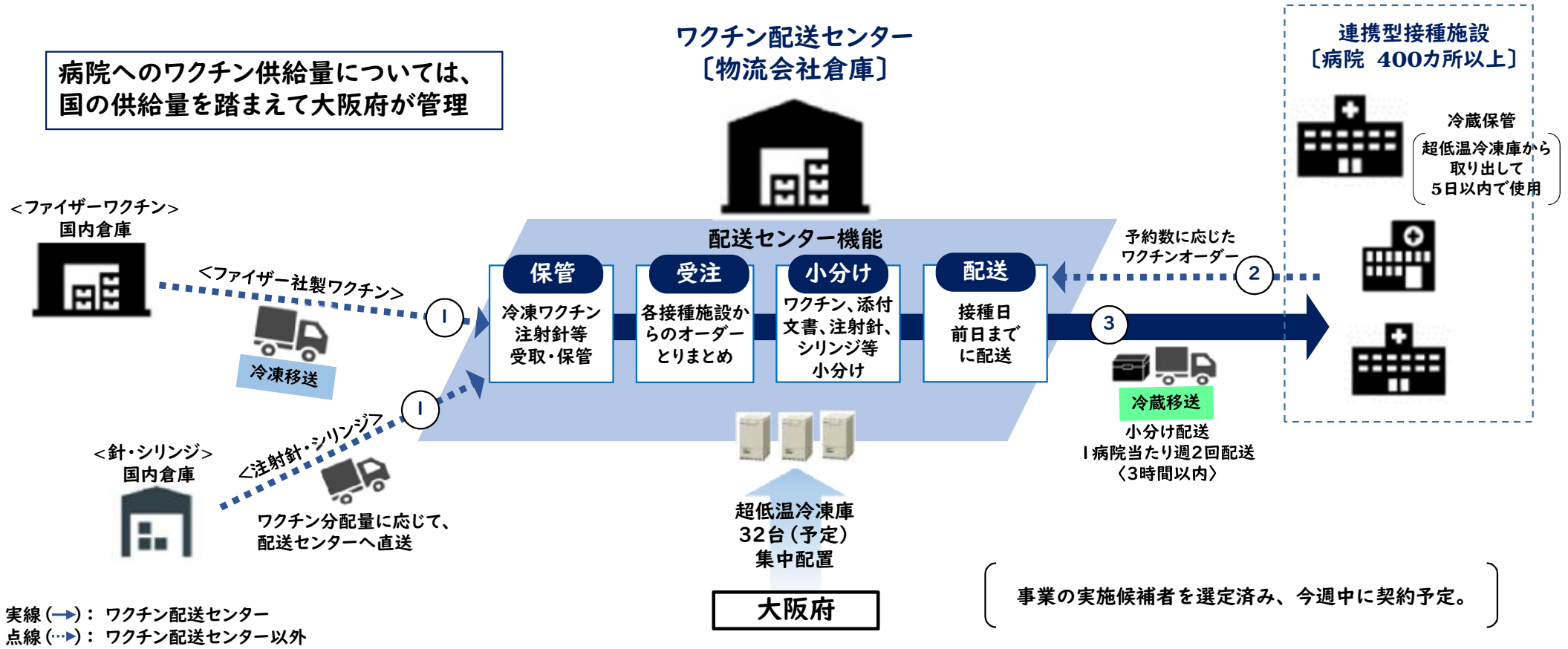
- ワクチンの保管、受注、小分け、配送の拠点を府内1か所に集約

② LINE予約システムの導入

- 接種日時・場所を簡単に検索・予約でき、予約接種前日のリマインド機能や接種記録機能を備えたシステム（予定）

新たな取組①：ワクチン配送センター

- ◆ ワクチン配送センターを大阪市内に1カ所整備し、冷凍ワクチンの保管、受注、小分け、冷蔵配送まで一貫して対応。
- ◆ 医薬品物流の実績がある事業者へ業務委託し、3時間以内の迅速な配送を実現。
- ◆ 府内病院400カ所以上へワクチンを小分け配送することで、病院医療従事者の負担を軽減。



新たな取組②：LINEを活用した予約システム

- ◆ 3月上旬から、他院で接種する医療従事者14万人について、LINEアプリを活用した予約システムを導入。
- ◆ 医療従事者等の業務への影響を軽減（都合の良い日時・接種場所を検索して予約が可能）
- ◆ 接種病院の予約管理の負担を軽減（電話による予約受付等と比べ、事務負担が少ない）

